

糖尿病だより

2016年11月
No.47

～臨床検査科より～ 糖尿病による神経障害について

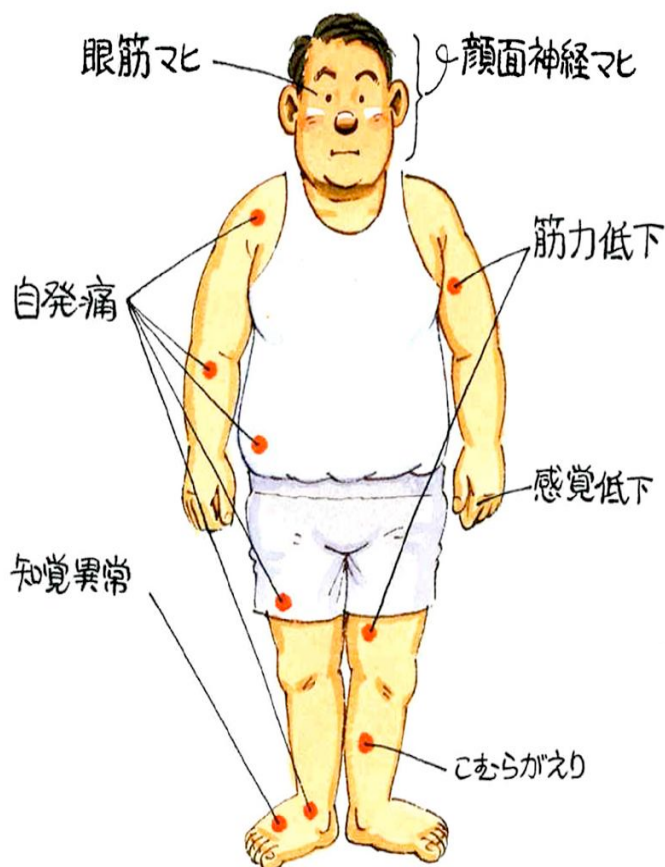
糖尿病による神経障害は、腎症、網膜症と並び、高血糖状態が続くことにより起こる糖尿病の三大合併症のひとつです。概ね感覚神経、自律神経、運動神経の順に侵されていきます。

感覚神経：冷たい、熱い、痛いなどあらゆる感覚を感じとる神経

自律神経：内臓の動きや発汗、体温などを調節する神経

運動神経：体を動かす神経

運動・知覚神経障害の症状



<こんな症状に注意!!>

初期

- ・足のしびれ、こむら返りなどから始まり、次第に手にも症状が起こる。
- ・さらには冷たい、暑い、痛いなどを感じ取る感覚が鈍くなる。

中期

- ・自律神経が侵されてくると、味覚が鈍くなる、胃もたれ、便秘や下痢を繰り返すようになる。
- ・立ちくらみや発汗の異常が起こる。
- ・尿意がなくなり、排尿できなくなることもある。

末期

- ・筋力が低下して歩けなくなる。

神経障害は、初期のうち血糖を厳格にコントロールすることで改善させることが可能です。食事療法と運動療法をしっかりと行い、血糖値をコントロールしましょう。

HbA1c の目標は 7.0%未満です！



糖尿病のコントロールには食事・運動などの生活習慣を変えることと、その継続が欠かせません。皆様の糖尿病療養に役立つ情報をこの「糖尿病だより」で発信していきます。

糖尿病療養指導スタッフ一同

国立病院機構 姫路医療センター